

大 学 院 特 別 講 義

(医歯学先端研究特論)

下記により大学院講義を行います。大学院以外の先生方も是非ご来聴下さい。

記

1．講師： 大学院非常勤講師（医療法人徳真会 先端歯科治療研究所 研究部門）

中村 幸生 先生

2．演題： 「**歯科医療グループにおける教育・研修のあり方**」

3．日時： 平成24年2月23日（木）17：00～19：00

4．場所： 第4講義室（7号館4階）

5．内容：

高等教育機関である歯学部的重要な役割は、国民から信頼される優れた歯科医師を育成することである。このことに異論を唱える人間はいないであろう。

歯学部では、古くから卒前臨床実習を各大学において行ってきた。しかし、近年ではさまざまな背景から、「卒前臨床実習、すなわち学生が患者の診療を行う」ことに関して理解と協力が得られにくい環境に陥っている。そのため、基本的な臨床能力の習得度を上げるために医療系大学間共用試験（CBT, OSCE）を行い、この試験の合格が卒前臨床実習を行うための条件とされた。さらに2006年、診療に従事しようとする歯科医師は、卒業後に最低1年間の臨床研修を受けなければならないことが定められた。厚生労働省が発した省令は、以下である「-----一般的な診療において頻繁にかかわる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付けることのできるものでなければならない。」では、医療系大学間共用試験（CBT, OSCE）に合格して卒前臨床実習を行い、さらに臨床研修を終えた歯科医師は、「一般的な診療において頻繁にかかわる負傷又は疾病に適切に対応できる」ようになったのであろうか？

連絡先：歯学教育システム評価学（MDセンター）荒木孝二（内4577）